

2006年度（社会調査士）科目認定と手順についてのお願い

科目認定委員会委員長 天野 正子

副委員長 岡太 彬訓

〔「確認項目」のねらいと運用の手順〕

認定委員会は、現在を法人化への移行期としてとらえ、科目認定の手順についてもよりよい方法を求めて、くりかえし検討を重ねてきました。

これまでの2004年度・2005年度の科目認定の経験をもとに、このたび、認定委員会は認定基準をより具体的な形で提示するための「確認項目」を作成しました。今回の「確認項目」は、2004年度の認定基準(2005年度の科目認定は2004年度の認定基準を適用)を基本的に踏襲するものであり、新たな基準を導入するものではありません。また、科目認定の際の連絡責任者の負担を軽減するため、「確認項目」に基づく科目認定の手順を簡素化しました。

科目認定の申請にあたり、どのような基準が適用されるかを事前に分かりやすい形で示すことにより、一方で科目認定の申請にともなう連絡責任者の負担を軽減し、他方で科目認定手順の透明性をより高めることが目的です。また、それは、科目認定をめぐる連絡責任者と社会調査士資格認定機構との間の事務作業を軽減することにもつながります。

2006年度以降の科目認定は(2004年度以降に開講されている科目が対象)、以下の「確認項目」にもとづいて行いますので、ご協力下さいますようお願い致します。

なお、(G 社会調査の実習を中心とする科目)の科目説明書の書式については、変更する予定になっております。授業内容をより具体的に伝えて頂くことが目的です。書式が確定しだい、お知らせ致します。

2006年度の科目認定は以下の「確認項目」をもとに検討されます(G科目は除く)が、「確認項目」運用の手順は、(1)「確認項目」との対応をはかることができない申請科目、ならびに(2)「確認項目」との照合の結果、標準カリキュラムの内容とのズレが大きい申請科目については書類の再提出を求めることになります。(3)軽度のズレがある申請科目については意見書をお送りしますが、書類の再提出の必要はありません。この場合には、意見書に書かれた内容を生かして授業を進めて下さるようお願い致します。

〔科目認定にかかわる確認項目〕

1 社会調査の基本的事項に関する科目【A】(社会調査入門)

(1)パンフレットの記述

社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する科目。社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査と官庁統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸課程に関する基礎的な事項を含む。(90分×15週)

(2) 確認項目(以下の諸点について授業でふれているか)

ア)社会調査の意義・用途

イ)社会調査史

ウ)調査倫理

エ)実際の調査例

オ)量的調査

カ)質的調査

*「社会調査の基本的事項」に関する8コマ以上の授業

1.2 調査設計と実施方法に関する科目【B】(調査設計)

(1)パンフレットの記述

社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する科目。調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差、サンプリングの諸方法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法(調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など)、調査データの整理(エディティング、コーディング、データクリーニング、フィールドノート作成、コードブック作成)など。(90分×15週)

(2) 確認項目(以下の諸点について授業でふれているか)

ア) サンプリング

イ) 調査票・質問文の作り方

ウ) 調査の実施方法(調査票の配布・回収法等)

エ) 調査データの整理(コーディング、データクリーニング等)

*「調査の設計と実施方法」に関する内容の8コマ以上の授業(質的なものを含んでいてもいい)

1.3 基本的な資料とデータの分析に関する科目【C】(記述統計と統計資料の整理)

(1) パンフレットの記述

官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識に関する授業。単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方。相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別、擬似相関の概念などを含む。

(90分×15週)

(2)確認項目(以下の諸点について授業でふれているか)

ア) 統計資料の整理

イ) 平均・分散・標準偏差

ウ) クロス集計

エ) 因果関係・相関関係

*「基本的な資料とデータの分析」に関する8コマ以上の授業

1.4 社会調査に必要な統計学に関する科目【D】(推測統計)

(1)パンフレットの記述

統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を教える科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用(平均や比率の差の検定、独立性の検定)、抽出法の理論、属性相関係数(クロス表の統計量)、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎など。(90分×15週)

(2)確認項目(以下の諸点について授業でふれているか)

ア) 確率論の基礎(確率変数・正規分布等)^{*注}

イ) 検定あるいは推定^{*注}

ウ) 相関係数

*「社会調査に必要な統計学」に関する8コマ以上の授業

*注…標準カリキュラム【D】確認項目ア・イについて、文言を一部修正しました(2007年6月)。ただし、あくまでも表現上の修正であり、内容の変更ではありません。

1.5 量的データ解析の方法に関する科目【E】(多変量解析)

(1)パンフレットの記述

社会学的データ分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する。重回帰分析を基本としながら、他の計量モデル(たとえば、分散分析、パス解析、ログリニア分析、因子分析、数量化理論など)の中から若干のものをとりあげる。(90分×15週)

(2)確認項目(以下の諸点について授業でふれているか)

ア)重回帰分析の解説

イ)重回帰分析以外の多変量解析法の解説(最低1種類)

*「量的データ解析の方法」に関する8コマ以上の授業

(E 科目の確認項目についての説明)

2004年度の認定基準(2005年度の科目認定は2004年度の認定基準を適用)では、重回帰分析の他に「2つ以上のモデル」をとりあげることが必要とされました。ただし、実際の認定作業では、「2つ以上のモデル」をゆるやかに解釈し、重回帰分析に付随して行なわれる分析等も含めていました。今回の確認項目では、「重回帰分析の解説と重回帰分析以外の多変量解析法の解説(最低1種類)」となっています。形式的には、認定に際して必要となる多変量解析法が2つから1つに変更されたこととなります。しかし、2004年度の認定基準の運用においてこれまでゆるやかに解釈していた「モデル」を、今回の確認項目にもとづく認定ではゆるやかに解釈することをせず、字義通り、「重回帰分析以外の多変量解析法」と解釈します。

したがって、今回公表する確認項目は、2004年度基準と実質的には大きな違いはなく、E科目の認定にあたり、より明確な対応ができると考えております。

1.6 質的な分析の方法に関する科目【F】(質的分析法)

(1)パンフレットの記述

さまざまな質的データの収集や分析方法について解説する科目。聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、フィールドワーク、インタビュー、ライフヒストリー分析、会話分析の他、新聞記事などのテキストに関する質的データの分析法(内容分析等)など。(90分×15週)

(2)確認項目(以下の諸点について授業でふれているか)

ア)2種類以上の質的な調査法の解説

*「質的な分析の方法」に関する8コマ以上の授業